

佐藤は、半年前に交通事故に遭い、今も意識が戻らないでいる。
白い部屋には、ベッドがあるのみ。

優希は、佐藤の手を握りながら話しかけている。

優希の膝には花が置いてある。

優希

あなた聞いて。今日ね、仕事が早く終わったから花屋さんに寄って来たの。そしたら店員さんが本当に褒め上手でね。綺麗なお姉さんにはこの花がきつと似合いますよって。綺麗なお姉さんですって、もうすぐで30歳よ。お世辞にも程があるのよね。まあ私すっかりその気になっちゃって買って来ちゃった。見てすごく綺麗なコスモス。コスモスってギリシャ語で美しいって意味なんだって。あとでこの花瓶に飾っておくね。できればね、あなたにも見て欲しかったんだ、あなたとこの喜びを共有したかった。

少間

そういえば、あなたが眠ってる間に家の近所にパン屋ができたんだよ。そのメロンパンがすごく美味しいの。あなたメロンパン好きだったよね。あなたが覚ましたら買って来てあげるから。絶対にあなた、気に入ると思うの。いつもね、1人でそこに行くとおあなたがいたらって思っちゃうんだ。きつと満面の笑みでメロンパンを頬張っていたんだろうなあって。だからさ、早く目を覚ましてよ。コスモスが枯れるまでに目を覚ましてそれ綺麗だねって言ってよ。お願い、あなた。あなたがいない家や仕事場なんて本当に耐えられないのよ

病室の扉が開く

優希、それに気づき、涙を拭う。

看護師

こんにちは

優希 私ったら泣いちゃってゴメンなさい

看護師 いえいえ、お気持ちは痛いほどお察し致します

優希 ありがとうございます

(佐藤の方を向きて)あなた、看護師さんが来てくれたわよ

看護師 数値を測定させていただきますね

優希 あなた、新人さん？

看護師 ええ、そうなんです。初めてのことばかりでまだ慣れてなくて

優希 最初のうちはみんなそういうものよ。これからよ、これから

看護師 はい、頑張ります

看護師、優希の持っている花に気づく。

看護師 コスモス、綺麗ですね

優希 彼のために買って来たの

看護師 奥さんからのプレゼントなんて佐藤さん、きっと喜んでますよ

優希 そうだといいけどねえ

看護師 きっとそうですよ。じゃあ、私はこれで

優希 ねえ新人看護師さん、お名前は？

看護師 佐々木と申します

優希 そう、佐々木ちゃん。頑張ってるね

看護師 はい！

看護師、病室を後にする。

優希 じゃあ、あなた。また来るね

優希、佐藤のおでこにキスをし、花瓶に花を添えてから部屋を後にする。しばらくしてから早希が病室に入ってくる。

一瞬、花瓶に目をやる。

早希 こんにちは、あなた

ベッド横の椅子に座って

早希　ねえ、聞いて。今日ね、匠がかけっこで1位を取ったんだよ。他の子と大きい差をつけてのゴールだったわ。多分、あなたに似たんだろうね。私、全然スポーツダメだったから。ねえ覚えてる？大学生の頃、公園でサッカーをした時のこと。私、全然足がボールに当たらなくて、空振る度にあなたに笑われたっけ。でも昔よりは進歩したのよ？匠とボールをパスできるまでには成長したんだから……。きつともうあの頃みたいに笑われることはないと思うよ。あなたとまたサッカーできる日を楽しみにしておくね

看護師が病室の扉を開ける。

看護師　え

早希、看護師に気づく。

早希　見ない顔ね

看護師　あ、どうも佐々木です

早希　どうしたの？

看護師　ちよっと忘れ物を

早希　(ベッドの上に落ちてるボールペンを拾って)ボールペン？

看護師　あ、そうです

早希、看護師にボールペンを渡す。

早希　ねえ

看護師　はい？

早希　忘れ物したってことはさっき来てたってことよね？

看護師　まあ、はい

早希　私の夫に会いに誰か来た？

看護師　え？

早希 誰か来たのね？だれ？

看護師 え、い、いや女性が

早希 女？

看護師 っぽい男の方が来られてました

早希 そう。この人の友人かしらね

看護師 そ、そうかもしれませんね

じゃ、じゃあ、私はこれで

早希 はい、ありがとうございます

看護師が病室を出る直前に早希が話しだす

早希 佐々木さん

看護師 はい

早希 私以外の女の方が来てたらすぐに私に伝えてくださいね？

看護師、何も話すことができない。

早希 それと私が会いに来てることも誰にも言わないこと。わかった？

看護師 わ、わかりました！

看護師は急いで病室を出る。

呼吸を整える。

看護師 しゅ、修羅場だ！

看護師は急いでその場を立ち去った。

早希は、飾ってあった花を捨てて

早希 じゃあ、あなた、今から夜勤だから。

行って来ます

病室を後にした。

次の日(暗転↓明転で表現)になる。
看護師が病室をノックする。

看護師 は、入ります

看護師はゆっくりと扉を開けて、中を覗き、誰もいないことを確認して、ゆっくり病室に入る。
看護師、ゴミ箱に目を向ける。

看護師 こんなに綺麗なコスモスを捨てるなんて

コスモスを取り出し、花瓶に戻そうとするが立ち止まり、

看護師 また、あの人に言われそう

佐藤 あんた、誰・・・？

看護師 お騒がせしてすみません、佐藤さん。看護師の佐々木です。つて、え！？

佐藤 看護師さん？

看護師 い、意識が戻った！

佐藤 意識が、戻る？

看護師 佐藤さん、先生を呼んで来ますね！ちょっと待ってください！

佐藤 ここは？

看護師 え、病院です

佐藤 どのくらい・・・、眠ってたんですか

看護師 は、半年間くらい

佐藤 は、半年。そんなに

看護師 ・・・・はい

佐藤 俺の名前

看護師 名前は佐藤圭太さんですよ

まさか、覚えていないんですか？

佐藤、深く頷く

その時、優希が病室にやってくる。

看護師 あ

優希 あなた・・・！

佐藤 誰

優希 誰って！奥さんの顔も忘れるなんて

佐藤 ・・・・奥さん？

優希 そうよ。私があなただの奥さんの佐藤優希よ！

佐藤 看護師さん、ほんと？

看護師 は、はい、そうです。優希さんがあなたの奥さんです

佐藤 そうか、優希

佐藤に優希は抱きつく。

優希 そうよ、私がどれだけこの瞬間を待ち望んでいたことか

佐藤 待っててくれて、ありがとう

優希 全然いいのよ。でも私のこと忘れてるなんて少し寂しいわ。

ねえ、あなた、どこまで覚えてるの？

佐藤 どこまで？

優希 そう、初めてあった場所は？初デートの場所は？プロポーズの言葉

は？どう、覚えてる？

佐藤 ・・・・ごめん

いいのよ、全然。私が一つ一つずつ思い出させてあげるから。頑張りましょう？あなた

佐藤 俺、頑張る

優希 私とあなたが初めてあった場所は私がいま働いている会社よ。

私たちはね、同じ会社で働いてたの。そしてそこで働いている時にあなたが話しかけてくれたの。私が一人で食堂で食べてる時に隣座ってもいいですか？って。その時にパン屋に誘ってくれたわ。おいしいメロンパンがあるパン屋に行かないか？ってね。初デートをしてから1年で私たちは晴れて夫婦になったわ。その時のプロポーズの言葉が「結婚してくれ」って。シンプルなおプロポーズ、あなたらしいなって思ったの

佐藤は黙り込む。

優希 どう？思い出した？

佐藤 優希

優希 どうしたの？

佐藤 もっと、教えてくれないか、俺たちのこと

優希 わかった。でもあなた少しだけ、少しだけ待っててもらえない？

佐藤 うん

と、いい優希は病室を出ようとする。

看護師 優希さん、どこへ？

優希 パン屋に行ってくるの。夫が起きたら買ってこようと思ってたの

看護師 いいですね。行ってらっしゃい

優希 佐々木ちゃん、あなたもいる？

看護師 良いんですか？

優希 良いのよ、行って来ます

優希、病室を出る。

看護師 良い奥さんを持ちましたね

佐藤 はい。しかも、可愛い

看護師 とても可愛くて、そして優しい。佐藤さんが羨ましいです

佐藤 そう、ですか

看護師 私、先生呼んで来ますね

佐藤 はい

看護師、病室を出る。

その時早希とすれ違う。

看護師 え

早希 あ、看護師さん

看護師 ちょっと待ってください

そう言って早希の手を掴む

早希 何よ

看護師 私は部外者かもしれませんが、あなたのやっていることは、放ってはおけません

早希 は？あなたは何を言ってるの？

看護師 良いですか？奥さんがいる男の人に内緒で会いに来たり、奥さんが持って来たコスモスの花を捨てたりあなたのは迷惑極まりないですよ？

早希 私は妻として当然のことをしてるだけよ！

も、もしかして、そのコスモス女が会いに来てるのね

腕を振り解いて病室に入る。

佐藤と早希の目が合う。

早希 あなた！

佐藤 ……だれ？

早希、佐藤に駆け寄る。

早希 私よ。あなたの妻の佐藤早希よ、私のことがわかる？

佐藤 わからない

早希 なんでわからないの。私の顔をよく見て！あなたの妻よ？

佐藤 俺の、妻

早希 そう、あなたの妻

佐藤 俺の妻は優希だ

早希 優希。誰よ、その女

早希、尻餅をつき、泣き始める。

看護師 早希さん、諦めてください。

佐藤さんの奥さんは優希さんなんです

早希 諦めろって、なんで私が、本当の妻の私が諦めないといけないのよ
看護師 あなたが本当の妻って証拠、あるんですか？

早希、カバンを漁る。

早希 婚姻届のコピーよ。佐藤圭太って書かれてる。

看護師 え、ほ、ほんとだ。でもなんでこれを？

早希 こういう時のために持っているのよ

看護師 じゃあ早希さんが本当の奥さん？

早希 そうよ

看護師 じゃあ、優希さんは何者？

早希 私が知りたくらいよ

佐藤 見せて

看護師 これに佐藤さんの名前が書かれているんです

佐藤 ほんとだ、どうして

早希 どうしてって。何度も言わせないですよ。私があなただの本当の妻なの。

優希って女は偽物で、あなたを騙そうとしているのよ。なんでわかって
くれないの？

佐藤 ごめん、でも俺、本当に覚えていなくて

優希、メロンパンを持って戻ってくる。

優希 あなた、ただいま

早希と優希が目が合い、

優希 佐々木ちゃん、その方どなた？

看護師 あ、え、えっと

優希 (佐藤に近づき)はい、あなたの大好きなメロンパン

佐藤 ありがとう

優希 あなた、何を持ってるの

優希、佐藤の持つてる婚姻届を受け取る。

佐藤 優希、それは

優希 へ、へえ。婚姻届ね。早希さん、あなたうちの夫と結婚してるの？

佐藤 優希、それは

早希 そ、そうよ。彼は私の夫なの

優希 あなたはこれだけで佐藤の妻だと言い張ってるの？いくらでも偽装で
きるわ

早希 それだけじゃないわ。私は大学で彼と出会って以来ずっと寄り添っ
て来たのよ？

優希 そんな作り話は要りませんから。彼は確かに私を妻だと認めたんです
よ。あなたも聞いたんじゃない？

早希 そ、それは

優希 聞いたのね。それは可哀想だわ

看護師 優希さん

優希 どうしたの、佐々木ちゃん

看護師 で、でも。もう一度聞いてみるのはどうでしょうか？佐藤さんも何かの
記憶違いなんじゃ無いでしょうか・・・。記憶ないけど

優希 そうね。ほらあなた言っただけじゃない、あなたの妻はどっちなのかを
佐藤 俺の、妻は・・・

その瞬間、病室のドアが開く。

早希や優希と同じくらいの年代の由香が歩いてくる。

由香 あなたたち、誰ですか？

みんな、一斉に由香に視線を集める。

由香と佐藤が目合う。

由香 え、え、あ、あなた・・・。め、目が覚めたの？

佐藤 お前は・・・

由香、佐藤に駆け寄る。

由香 あ、あなたの妻の由香よ。

佐藤 だ、ダメだ。思い出せない

由香 ど、どうして！？どうして覚えてないの？

私たちずっと寄り添って歩いて来たじゃない。

そんなー

看護師 すいません、私3回目なのでマキでお願いします

由香 マキでって！あなた一体何なのよ！

優希 でもさ、彼覚えていないんだって。ほらやっぱり私が妻なのよ。

由香 あなた、私が妻って、何を言ってるのよ。私が本当の妻よ？

早希 あなたには証拠、あるんですか？

由香 カルテを見たらわかると思いますよ？

看護師 た、確かに！カルテ、見て来ます！

早希、病室を出ようとする看護師の腕を掴む

早希 ちょっと待って。カルテに頼るってそれはズルよ

優希 そうよ。本当にあなたたちは婚姻届やらカルテやら事実の証拠に頼る

うとしているけど、それが大事なことのの？今の佐藤さんの状態を見て。記憶がないのよ？ってことは過去の恋愛感情も覚えていないんですよ？今の彼に必要なのは昔の証拠じゃない、今の感情よ。今、彼が誰と付き合いたいのか！そう今が大事なの！今！だからもう佐藤さんに決めてもらうしか方法がないんじゃないかしら

早希 ちょっとあなたたちさっきから言っていることが支離滅裂ですよ？

優希 それに由香さん。あなたも妻としての自信があるならカルテに頼っちゃ

いけないよ？わかりましたか？

由香 わかりました、良いでしょう。受けて立ちます。じゃあ、あなた、この

3人のうちだれが妻なのか選んでください

早希 ちよ、由香さんまで

看護師 早希さん、もう覚悟を決めましょう

早希 くっ

佐藤 お、俺の、

少間

佐藤 だめだ、わからない

3人、ポカンとしたあと、佐藤に迫る。

優希 何でわからないのよ！

由香 そうよ、あなたって人は本妻をないがしろにして

看護師 ちよ、皆さん、落ち着いて

佐藤は自分の頭を搔きながら呻く。

佐藤 あー！

その瞬間、佐藤は気を失う。

看護師 え、佐藤さん！だ、大丈夫ですか！？

私、お医者さん呼んで来ますね

由香 あー、看護師さん、いいのよ、毎度のことだから

看護師 え

早希 あーあ、今回はさすがに負けると思ったわ

由香 私も！今回、来るの遅すぎたわ

看護師 ま、まける？どういうことですか

早希 え、そのままの意味よ？

優希 どうして、早希さんは婚姻届のコピーっていう武器があつたのねえ。
詰めが甘いわね。

由香 さて、次のゲームはいつかしらね

優希 さあね、とりあえず今日は疲れたから帰りましょ

早希 そうね

そう言っつて、3人は帰る。

看護師

え、ちよ、どういうことですか！？
負ける？ゲーム？え、とりあえず先生呼んで来ます

看護師も病室を出る。

佐藤は最初と同じくまた深い眠りについてしまった。

終